

平成29年度 宮崎県立延岡星雲高等学校 学校評価

学校経営ビジョン	創立時の精神を受け継いで、新しい風を起こし、地域に根ざす中堅の普通科高校として、生徒一人ひとりを大切に、豊かな人間性を育み、地域や保護者に信頼される学校づくりを推進する。			学校関係者評価のポイント ・自己評価の項目や指標は適切に設定されているか。 ・自己評価の結果は、指標等を基にした妥当なものであるか。 ・自己評価の結果を踏まえた成果と改善策は適切であるか。	
本年度の重点目標	1 生徒一人ひとりの学力向上と進路実現を図る 2 豊かな人間性とコミュニケーション能力を醸成する 3 部活動を活性化させ、学校行事やボランティア活動等への積極的な参加を促す 4 地域や中学校等への広報活動を充実させる			※ 自己評価、学校関係者評価とも、A～Dの4段階評価とする。 A：期待以上 B：ほぼ期待通り C：やや期待を下回る D：改善を要する	
重点目標	評価項目	具体的指標	自己評価 成果と課題・改善策		学校関係者評価
1 生徒一人ひとりの学力向上と進路実現を図る	① 生徒の進路実現を図る	進路選択アンケートで、評価4以上80%	3年生の進路状況について、12月21日までで学年の4割強にあたる84名の生徒の進路が確定している。その中には普通科高校の実績指標の一つである国公立大学合格者が13名含まれており、まずまずの結果である。	C	B ○生徒の進路実現を図るためには、早い時期からの進路講演会は必要であると感じています。高校3年間という短い時期の中で、将来を左右するであろう大学を決めなければいけないのですから。先生方の日々の努力が垣間見えるようです。 ○生徒自らが考えたり、思いや意見を述べたりする活動を展開している。個々の生きる力へとつながるよう継続を期待する。 ○自己実現のために、生徒が意欲を出す工夫をいろいろと考え実行しようとしている。教師の姿勢が良い。 ○①について、普通科高校(公立)の実績指標の1つである大学実績(国公立大)は、母数に対してどのくらいの割合が目標数の値となるのかを是非知りたいです。 ○将来の為に何を勉強したいかという目標を見つけるためにもキャリア教育や、NIEの活用は重要なことだと思います。”聴く”と共に”みる”という機会も増えると良いですね(地域社会資源活用)
	② 相互授業参観を実施し校内研修を行う	同一の科目や学級を指導する担当者がお互いの授業を参観し、意見交換を行う。	昨年度の反省から、実施期間を改善し、相互授業参観の機会が増えるように工夫した。同様に昨年度の課題であった、「生徒にどのように学ばせるか、生徒が何ができるようになるか、といった視点」を持つために、担当者が新たに「相互授業参観の視点」のプリントと、生徒の学びに注目した所感シートを作成し、授業参観の目的を明らかにすることもできた。	C	
	③ キャリア教育を推進する	アンケートにおいて満足度 80%以上	これまで進路講演会を各学年に対して1回ずつ実施し進路意識の高揚を図った。1年生・2年生に対してキャリア教育講演会を1回実施し、3月に2回目を行う予定である。大学出前講義をこれまで1回しか実施できなかったが、2月に16校前後の大学学校を招いて校内進路ガイダンスを実施する予定である。1年生の普通科対象の「ミライ学」を9月に実施する予定した。これらを通して1年生は2年生における文理選択、2年生は3年生におけるコース登録、3年生は受験校の決定に役立てることができることを成果としたが、これはまだ今後の追跡調査が必要と思われる。	C	
	④ NIEを活用するとともに読書活動の推進を図る	新聞活用を図書便りで広報し、NIEの授業実践を2回以上行う。また、読書活動を推進するLHRを実施する。	新聞を活用したNIEの授業実践を行った。今後2回目の授業実践を行う予定である。11月10日のLHRでは、1・2年生クラスにおいてピリオバトルを実施し、読書活動を推進した。新聞活用の広報活動は、随時行っている。	B	
2 豊かな人間性とコミュニケーション能力を醸成する	① 規範意識や自主性を育てる	各種委員会アンケート(生活面)において、平均3以上	アンケート結果は3.0であった。「あいさつ」「服装容儀」「交通ルールマナー」に関する評価が若干低い。自己肯定感や規範意識を高めるための働きかけが課題。また、今年度は問題行動が例年に比べ多く発生している。特にスマートフォン等やSNSの利用の仕方に関する問題については年を追うごとに拡大しているように感じる。スマートフォン等やインターネットの利用歴が長い生徒が増えていることも要因と考えられるが、保護者と連携した指導を目指したい。	C	B ○スマートフォンやSNSの利用上のトラブルは、社会全体の大きな問題になっているので、保護者の方々にも大きな心配のひとつになっている事でしょう。こればかりは学校側だけではどうにもならないので、やはり生徒を取り巻く全体の連携・協力が必要であると思う。 ○個々の思いをお互い受け止められるような上記の授業展開が問題行動を振り返る契機になって欲しいと思う。 ○近隣の人達に気楽に挨拶できるようになってほしい。やや消極的である。野球部等は良い。 ○改まった場所以外でも気楽に先生に話しかける雰囲気がほしい。 ○服装なども乱れは少なく、地域の人達に好印象を持たれている。 ○①について、今後の拡大するSNSの問題については、早めの処置が必要だと思います。 ○環境美化への取組は人材育成にとっても良い影響を与えていると思います。いつ学校に来校してもきれいに整えられている校舎は気持ちが良いです。
	② 特別支援教育、教育相談等を充実させる	開かれた相談室を目標に、生徒や先生方の情報を敏感に速やかに対応できるようにする。	生徒の相談がスムーズにかけつらくなるとして行える相談室作りが課題。頻繁には相談はないが訪れた時の雰囲気が重要で、その時の対応の仕方で今後の方向性が決まると思い丁寧な対応を心がけた。学年会に出席させてもらっているのは、生徒理解に大いに役立っている。もっと、積極的に関係職員に働きかけ、少しでも生徒にとって有意義な相談活動を今後実施しなければならぬと感じた。	B	
	③ 環境美化化活動や防災教育を推進する	避難訓練では無言で迅速な行動をとれる。普段の清掃に率先して取り組める。花壇の花植えや水やりができる。	本年度2回実施した避難訓練では、避難経路や入賞確認のあり方を見直すことで、実際の場面に生かせる避難のあり方を検討し、ひな型を示せた。生徒職員ともに緊張感をもって訓練に臨む姿勢がみられ、成果が確認された。今後は、抜き打ちや避難経路の一部閉鎖などを行うことで、より実践に対応する力を養う機会としたい。清掃や花壇の花の手入れについては、職員の指導もあり、良好な取り組みが見られる。	B	
3 部活動を活性化させ、学校行事やボランティア活動等への積極的な参加を促す	① LHRや学校行事、ボランティア活動を充実させる。	各種委員会アンケート(行事・校外活動)において、平均3以上	アンケート結果は3.4であった。星雲祭を中心とする学校行事に関しては意欲的に取り組んでいるようだ。今年度も限られた時数での活動となり、担任の先生・実行委員の生徒・体育大会のリーダーには、かなり負担をかけている現状もあるため、内容を精選することが課題。今後も組織的で計画的な運営を目指したい。	B	B ○普通科高校の部活動加入率85%以上は本当に素晴らしいと思う。部活動での心の成長や鍛えられるものは計り知れないと思う。 ○ボランティア活動は地域社会を知る上でとても良い経験のできる場なので、将来の生徒の進路設計においても大きな影響を与えてくれると思う。 ○行事の励む生徒、ボランティアに励む生徒、部活動に励む生徒、教室への一歩を踏み出そう頑張っている生徒、それぞれの評価を先生方がしっかりされ、反省されているようである。 ○入学式等での礼儀正しさ、規律正しさ、体育大会等での積極的な活動が良かった。体育大会では遅くても懸命に走っていたのが印象的であった。 ○地域へのボランティア活動が多少あっても良い。広報活動になる。 ○スポーツの表彰看板は個人の励みになる。 ○①②については、毎回頂いている広報誌より様子を伺っています。 ○部活動や行事に真っ直ぐ生き生きと取り組める生徒が多いように見受けられます。実際、「星雲祭、盛り上がった。楽しい。」との生徒さんの声も多く聞きました。
	② 部活動を活性化させる	部活動加入率85%以上、ボランティアへの積極的な参加。	アンケート結果は3.6であった。6月1日現在の集計では、男子88%、女子85%、総計86%であった。年3回の部活動推進週間については、ただ継続させるだけでなく、しっかりと検直し指導の改善と内容の充実を図りたい。ボランティア活動については、10月末現在で総計245名の参加があった。生徒のボランティア意識は高く、参加したいのだが部活動などで参加できていない生徒も数多く存在している。今後も積極的な参加を呼びかけていきたい。	B	
	③ 自尊感情を育てる	カウンセラー室登校の生徒を教室に戻すこと、不登校生徒を減らす努力。	カウンセラー室登校の生徒は今年は多くない。しかし、なかなか、教室にいけない生徒もいる。どのように働きかけ、どのように気持ちを教室復帰に向けていくのが勉強不足であった。行けない理由や原因を家庭訪問や中学校の関係者から聞き出すことも必要で、生徒の今の状況をまず把握して取り組んだ方が成果は得られると思う。その辺が不十分であった。今後改善して身のある活動にしたい。	C	
4 地域や中学校等への広報活動を充実させる	① 学科の特色を明確にし広く地域や中学校に発信していく。	生徒会が実施するアンケートの結果を用いて、わかりやすい広報を行う。	高校説明会の機会に、生徒会が実施した中学生へのアンケートや、自主作成の「グルメマップ」、星雲祭ポスター配布等、生徒が主体的に活動しているエピソードが伝わるよう心掛けた。	B	B ○自分たちの学校を地域に発信する事は、生徒にとって自分のいる高校をより知る上でとても大切な事であり、生徒の自覚や自尊心の芽生えにも良いと思うので、頑張ってください。 ○個人情報に留意しHP等外部からのアクセスに対応できる形態を今後も続けて欲しい。学校行事(文化祭)を地域の子も達や一般の方々も参加できる内容にされていた。「楽しかった。」という地域の方の声を聞いた。 ○中学校だけではなく、身近な地域に学校を知ってもらうため、地域と連携した校外活動も大切だと思う。 ○放送部のアナウンスは高校生らしくとても良い。学校のPRにもなっている。 ○①について、「グルメマップ」は、とても興味をひく内容だと思いました。 ○ブログやSNSを使っでの広報はある意味、難しい時代になってきたように思います。生徒が自分の学校をどう発信するかが大切で、その自主的な取組を評価します。
	② オープンスクール、高校説明会、中学校訪問での本校の魅力を発信する。	生徒募集ポスターの配布 学校説明会への100%対応 在校生の出身中学校訪問	今年度の生徒募集ポスターのデザインに2点変更した。ひとつめは、本校に親しみやすいイメージを持ってもらえるよう、生徒会が制作したゆるキャラを登場させたこと、もうひとつは、オープンスクールの実施日を別刷りの帯にして添付したことである。やむを得ない理由によりオープンスクールの延期を余儀なくされたが、別刷りの帯を差し替えることで、昨年のように中学校を混乱させずに済むことができた。学校説明会や随時申し込みのある学校見学等には例年同様100%対応できた。在校生の出身中学校訪問については、組織的な取り組みには至らなかった点を改善したい。	B	
	③ ホームページ、学校便り等で特色ある活動等を地域や中学校及び保護者に広くアピールする	学校案内パンフレットや学校ホームページ、ブログを工夫し、魅力ある内容にリニューアルする。	学校案内パンフレットの構成を刷新し、普通科についての特色ある活動を記載した。学校ホームページは、技術的な問題から閲覧状態が安定しないことが多々起こっている。広報に関しては素人同然の教職員で運用しているため、デザインやICTの知識に詳しくないため、リニューアルは今後も課題として残っている。一方で、ブログやフェイスブックの更新も不定期に行っているが、本校のSNSを使って宣伝や中傷を行う部外者がいて頭を悩ませている。	C	